

令和4年度第1回 武蔵野市健康福祉総合計画・地域共生社会推進会議 会議要録

- | | |
|-------|---|
| ○日 時 | 令和4年11月17日（木）午後6時30分から7時40分まで |
| ○場 所 | 武蔵野市役所802会議室 |
| ○出席委員 | 市川一宏、渡邊大輔、山井理恵、岩本 操、久留善武、田原順雄、宮原隆雄、小安邦彦、稲住成由美、植村由紀彦、千種 豊、村雲祐一（敬称略）12名 |
| ○傍聴者 | なし |
| ○事務局 | 山田健康福祉部長、一ノ関保健医療担当部長、福山地域支援課長、宮本生活福祉課長、小久保高齢者支援課長、齋藤障害者福祉課長、寺井地域保健調整担当課長、小池新型コロナウイルスワクチン接種担当課長、齋藤保険年金課長 他 |

1 開 会

2 委嘱状交付

3 新委員自己紹介

○歯科医師会会長交代による新委員への委嘱状交付（机上）及び委員の自己紹介。

○地域支援課長より、人事異動で新たに就任した事務局職員の紹介。

4 議事

（1）第3期健康福祉総合計画の進捗状況について（各課・令和4年度事業報告）

【座長】 第3期健康福祉総合計画の進捗状況について、報告をお願いします。

○事務局が資料1～資料5を説明（略）

【座長】 ご意見をいただきたいと思います。

【委員】 まず福祉総合相談窓口について、コーディネーターを1名増員されて、増強しながらニーズに応えることはとても良いと思うのですが、総合相談の後のフォローアップを始めているのかということ。例えば1年くらい後に、どうですかと確認することを行っているのか。それから、総合相談は恐らくいろいろなケースがあり、ノウハウや事例の共有が重要だと思うので、知識や経験の継承に何か工夫していることがありましたら、伺いたいと思います。

2点目は、障害者福祉センターの建て替えについて、障害の当事者や相談での利用者の参加があるのか、伺えればと思います。

【事務局】 福祉総合相談窓口のフォローアップは、相談が終わった方も、基本的には3カ月後、6カ月後、1年後まで追いかけて、その後うまくやられているかの確認をしています。他課に引き継いだ場合も、内部でまたはご本人に確認をしています。

総合支援調整会議において他課や関係機関と事例を共有し、対応が正しかったか、もっと良いやり方があるのかということも含めて検証し、後で見返すことができるように記録を残しています。

【事務局】 障害者福祉センター改築で、当事者からのご意見に関しては、9月上旬に、センターを利用されている当事者もしくはボランティアを含めて、団体ヒアリングを実施しました。今の建物を踏まえ、今後のセンターに期待することなどについてご意見を伺いました。また、こちらの建物を使って事業を実施している法人等からのヒアリングも行っています。そういった形で多角的にご意見をお伺いして、基本計画の策定を進めています。

【委員】 北町高齢者センターは、武蔵野市の名誉市民である山崎倫子先生のご寄付で成り立ったセンターですが、市内の他の高齢者施設とどのように違うのか、すみ分けるのか、あるいは利用者がどのように変化してきているかを教えていただければと思います。

【事務局】 現在、1階でデイサービスを行い、比較的介護度が低い方が通う施設になっています。

あわせて、医院だった場所はお風呂を改修し、2階に子育て施設のみずきっこが入っています。子どもと高齢者という、多世代の交流を行う、コミュニティーケアサロンの理念が実践されている施設となっています。

2階は高齢者の住居として5部屋ありますが、居住者が要介護になると自立して住むことが難しいことから、現在はお一人という状況ですので、今後を見据えあり方を検討をしているところです。

【委員】 高齢者にとって有用な施設になるように望んでいます。

【座長】 創設されたときは非常に興味を持ったセンターでした。社会環境は当時と同じですので、単なるデイサービスじゃなくて、コミュニティーという側面がどう関わることができるか、ぜひ強調していただきたいし、ダイアナ妃が訪問したほど、武蔵野市の目玉なので堅持していただきたいと思います。

【副座長】 北町高齢者センター、障害者福祉センター、保健センター等、施設の老朽化に伴い、建物のことと今後の機能のあり方が同時に検討されていると思います。

私は障害者福祉センターのあり方検討会に参画して、これまでの機能の継続と同時に、

地域の居場所、気軽に相談できる場所など、機能の充実も図られると、各施設の機能が重なる部分があるかなと思いました。施設の建て替えやあり方の検討の中で、機能の乗り入れといったことを検討するのか、お聞かせください。

【事務局】 保健センターに関しては、建設時と比べて、保健所業務の移管などもあり、健康課の役割がかなり大きくなりましたので、まずはそれに対応する機能の拡充、さらに、少子高齢化の中でのコミュニティ作りのため、健康福祉分野だけではなくて、子育ても入れた、いろんな世代の人が利用できる施設とすることにしています。

【事務局】 障害者福祉センター、北町高齢者センター、保健センター、いずれも従来の縦割りでの施設整備ではなく、複合化とか、分野横断的な施設のあり方が求められると思います。具体的な内容についてはこれから議論しますが、従来の高齢者のみ、障害者のみの施設ではないという認識のもと、今後のあり方について議論したいと考えています。

【副座長】 キーワードはコミュニティづくりではないかと思います。それぞれ立っている場所を拠点化するような形になると良いと思います。

【委員】 地域包括ケア人材育成センターについて、介護従事者の悩み相談事業ですか就職支援事業は、働いている人だけではなくて、これから福祉につく人にも関心が高いのではないかと思います。

ただ、福祉人材の確保、長く勤めていただくということも含めて課題であり、私どもの法人も苦労して人材を確保しています。今後、裾野を広げる取り組みなどありましたら、お聞かせください。

【事務局】 地域包括ケア人材育成センターでは、さまざまな研修に加えて、フォローアップも行っています。具体的には、管理者向けの研修として、職員のサポートやスーパーバイザーとしての役割を果たすことを目的とした、人事管理や危機管理、コーチング等の研修を行っています。

それから、40歳未満の介護従事者の悩み相談などのため、「若ば」という場を設定し、コロナ禍でもオンライン等で情報交換を行っています。事業所内で相談しづらいことも、同業者の緩いつながりの中から共有して、業務の気づきにしていくという取り組みです。

それから、介護従事者が悩みを抱え込まずに解決に向ける、あるいは悩みを受けとめることによって、孤立感を抱かずに業務に当たれるように支援するため、福祉公社内もしくは電話による相談受付、さらに法的な対応が必要な場合は法律事務所の助言を受けることができる体制で実施しています。

また、これから介護に関する関心を持つ方が理解を深めるお仕事フェアなども継続して続けていく必要があると考えています。

【事務局】 介護職・看護職の魅力発信では、ケアリンピック武蔵野を開催しますし、また介護人材の裾野拡大では、シニア支え合いポイント制度あります。コロナ禍で介護事業者等の人材確保が難しいというお話から、介護職・看護職Ｒｅスタート支援金事業を市単独事業として昨年度から実施をしてきました。我々としてもさまざまな施策を組み合わせ、人材確保・育成に尽力しているところですが、まだ不十分な点があると思います。

来年度の計画策定に向けて、今年度は介護職・看護職の皆様に向けたアンケート調査も実施します。そのアンケート調査の中から現場の率直な意見を吸い上げて、施策に結びつけるものはしっかりとつないでいきたいと思っています。介護職・看護職の皆さんにご協力いただく場面が多々ありますので、ぜひ率直なご意見を聞かせていただければと思います。

【座長】 この部分はかなり緊急性が高いですね。人材を確保できなかったら、事業ができないし、ケアマネジャーが少ないという発言も出ています。主要なところをはっきり出して強化する。武蔵野市の目玉ですから、お願いします。

【委員】 政府の認知症施策推進大綱の大きなテーマは２つ、予防と共生です。これに関して、２つお願いを申し上げます。

まず、予防については「フレイル」という概念が浸透してきています。ただ、これまでは身体の運動機能のを中心に進んできましたが、実際には、認知症についても、ＭＣＩに代表される軽度認知障害といった部分、それからソーシャルフレイルと言われる社会とのコミュニケーションがうまくとれないといったケースも含まれます。また、ヒアリングフレイルという、耳が聞こえにくくなりコミュニケーションがうまくとれなくて、認知症ではないかと誤解をされるということもありますので、フレイルについてはさまざまな方向から取り組みをしていただきたい。

共生では、認知症でも社会生活は維持されている方々も結構いらっしゃいます。例えばおつりをちょっと間違えてしまうとか、町に出たけど帰り道がちょっとわからなくなるとか、そういうレベルの方々を、地元の商店街や企業や社会を構成する方々が、排除せずに受け入れていく、認知症バリアフリーという考え方を企業が宣言する取組みが今年度から始まっています。武蔵野市でも、商店街の皆さんを初めとして、さまざまな企業が認知症の方を受け入れます、一緒に支えていきますという宣言に積極的に取り組んでいただけるよう市としても推進していただければと思います。

【事務局】 まず、フレイル予防に関しては、コロナ禍もあり、現在、非常にクローズアップされていると思います。本市でも従来から自立支援、介護予防、重度化防止を実施してきたところですが、今回ご案内したこちらの事業も、認知症とフレイル予防を一体的に進めていく必要があります、まずはきっかけづくりのため、今年度から実施している事業です。

スポーツジムや、メイクアップ講座など、さまざまな企業の協力をいただきながらまちぐるみでやっていくところが、この推進月間の大きな特徴です。

また、聞こえの問題については、今回、日常生活アンケート調査の中に市独自の調査項目として入れますので、その結果も見ながら、施策に生かしたいと思います。

北町高齢者センターのあり方の中でも、コミュニティの切り口の一つとして、認知症、若年者も含めた相談の場にできないかというご意見をいただいているところです。

いきいきサロンという武蔵野市独自の通いの場がありますが、今年 10 月に、商店街との連携により開設したというところもあります。まさにまちぐるみという視点で今後も施策を進めてまいりたいと考えています。

【委員】 認知症の方の未払い行動が注目を浴びています。ある店舗では、認知症サポーターをさらに発展させ、認知症の人が来たときの未払い行動の対応の練習やマニュアルをつくって普及させようという動きがあります。そういう取り組みをまた取り入れていただければと思います。

【座長】 11 ページ、ひきこもりの支援事業の拡充ですが、ひきこもりはかなり多いですし、フレイルも併せて、虚弱から要介護になっていく高齢者も多く、それで出なくなる。ひきこもりのことは重点的に取り組んでください。

例えば、若い層がボランティアセンターにひきこもり事業を入れているところもあるようで、いろいろな動きがありますから、ぜひお願いします。

それから自殺予防ですが、どうしても自殺予防の連携が難しいと感じています。来週、厚労省の寄り添い型相談支援事業の審査会がありますから、そこでも提案したいと思います。市だけではできないので、国や都がどう考えるのかということを経験をぜひ議論していただきたいと思っています。

（２）第４期健康福祉総合計画の策定について

【座長】 次に、第４期健康福祉総合計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

ます。

○事務局が資料 6 を説明（略）

【座長】 4 期の武蔵野市健康福祉総合計画、これはかなり重要な計画で、腕力が必要です。特に最近、こども家庭庁ができて、支援体制を強化することがはっきり出ています。その部分はどうなるのか。従来からの議論で、すぐは解決できないと思いますが、今後ご検討いただければと思います。

それから、今まで計画については参加も明確にし、基本構想だけではなく実施計画もきちんと詰めています。ただ、今までも各個別計画で、同じような施策が議論されることがあったので、今後は、施策の調整が必要になると思います。拡大委員会もですが、内部でも調整が必要だと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】 子どもの部分について、従来からご指摘をいただいているが、何も変わっていないのですが、確かに、周囲の状況が変わる中で、大きな課題だと思います。

武蔵野市子どもプランという、非常に壮大な計画があり、そこどう調整を図るのか、そういった課題を解決するために、健康福祉総合計画を策定するに当たり、健康福祉部のみで策定を終えるものではないという認識はあります。その前段として、庁内の調整のため、子ども、教育、住宅、都市整備などの部署を含む分野横断的な会議体を設置していますので、そこでの意見交換も踏まえ、健康福祉総合計画をつくり上げていきます。今、座長が言われた部分は、引き続き庁内でもしっかりと検討を進めてまいります。

【座長】 これだけ根幹となる仕組みが違うと、難しいですね。一応調整をしてください。

5 連絡事項

○ケアリンピック武蔵野 2022 案内

○次回会議（令和 5 年 3 月 29 日）案内

6 閉 会